

— 正則小のルーツをさぐる —

「ルーツ(roots)」というテレビドラマがありました。1977年放映のアメリカドラマです。黒人奴隷3代をさかのぼり、南アフリカ出身であることにたどり着く、アーサー・ヘイリーの作品です。ドラマは爆発的にヒットして、以来、「ルーツ」という言葉は外来語として、日本でも広く定着しています。意味は「根源、起源、祖先」だそうです。



※画像「ウィキペディア」より

明治5年、富岡製糸場が操業を開始し、横浜―新橋間に鉄道が開通し、“西郷どん”43歳が明治政府でがんばっていた年、正則小の前身である「義校」が二ツ寺と富塚に設置されました。義校は民間の寄付金で作られた学校で、

当時の「名古屋県」には400以上作られていたといわれます。その前年に、廃藩置県（日本史で習った！）が行われたばかり。近代化を急ぐ明治政府は、公教育の重要性をよくわかっていて、民間による初等学校設立を奨励していました。地域みなさんがお金を出し合い、学校を作ったのです。やがて、それらの学校は小学校として認められ、だれもが公平に教育を受ける場となりました。大正6年（1917年）、第1次世界大戦まただ中、愛知県が二ツ寺に福島正則生誕碑を建立したのを機に、二ツ寺尋常小学校は正則尋常小学校と校名を変更しました。

それから100年、正則の名をいただく本校は、地域の人々に支えられながらこの地区の教育を担っています。

101年目の正則小には、当時の面影は全くありません。それどころか、平成も30年を数えると、本校にある昭和の遺産すら、それがいつ、だれの手で、なんのために作られたのかよく分からないものがたくさんあります。ただ、今を生きる正則の子にとっては、今が“ルーツ”です。正則小を卒業した



あと、誇りをもって“あのころの正則小は…”と語ることができる学校にしていきたいと思えます。それが未来の正則の子たちへの、私たちの責任です。



では、「ふく王」のルーツは？平成27年、第1回「あま市ものしりジュニア検定」が行われました。検定テキストを作成するにあたり、あま市の歴史に小学生が親しみやすいように、甚目寺観音、七宝焼、蜂須賀小六、福島正則のイメージキャラクターを載せました。正則は“いかめしく無骨”というイメージで描かれています。構想は浅井先生、命名は渡辺先生、デザインはデザイナーの服部さんです。今年度から、ゴールドふく王くんが、来賓玄関でお客様を出迎えています。ぜひご覧ください。